

お客様との長いお付き合いを 目指して、常に考える

株式会社かねぜん建設

代表取締役社長 古賀 雅臣 さん

今回は百年以上の歴史がある株式会社かねぜん建設の古賀さんにお話を伺いました。

当たり前をやり続ける

明治33年に先々代である古賀善一さんが古賀組を創業され、先代正月さんを経て今年で117年目になるとのこと。古賀さんは三代目にあたられ



店舗外観

ます。「30歳で大川に戻り、入社しました。その頃は好景気だったこともあり、仕事も多い時代でした。家具業界も忙しく、大川市内外の家具店や産業会館増築などの建設を手がけました。ハローワークやワークピア、最近では大川三潴医師会館などの建設に携わってきました。またマンション建設も行っており、ルネスマンションを中心に大川市内外問わず手がけています」

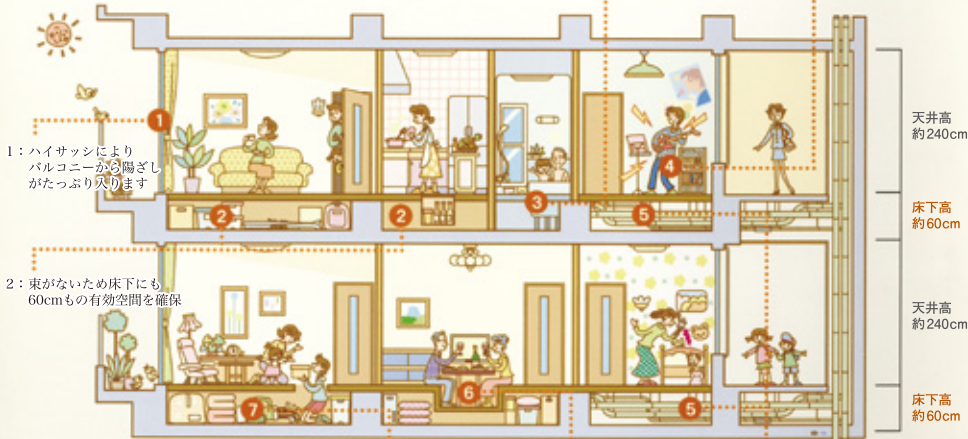
生涯利益を見越した提案

「新しいと考えています」
新築工事を終えてからの修繕工事を依頼にも繋がるよう努力をされており、多種多様な依頼を年間数百件以上受けられているそうです。

「建設業という業種柄、大きなお金が動くこともあります。そうではない時もあります。売上を安定させるのが困難であり、悩みでもあります。人口減少のこの時代においても、売上を安定させるような仕組みを構築するのが目標です」

かねぜん建設がお客様の土地活用として提案をしているものの一つに、国土交通省が推奨しているスケルトン・インフィル工法を進化させた「ルネスマンション」というものがあります。

「日本では約30年ほどで建物を解体し、新しい建物を建てますが、もっと長くもたせましょうという考えに則った建物になります。簡単に言いますと、柱、床等の骨組みは長



※配管設備の位置・数等に関しては行政の指導により、変更される場合があります。

7:床下を広大な収納スペースとして活用

6:高齢者対応住宅などにも柔軟に対応可能

5:床下に人が入って作業でき、メンテナンスが容易に行えます

く保たせ、内装や設備は時代に応じて改装しやすくなっています。従来の工法ではコンクリートのなかに配管が通っていましたが、スケルトン・インフィル工法は二重床になっており、床と床の間を配管が通っています。そのため点検や取替などもしやすくなり、束（つか）短い柱があれば二重床にすることが可能です。束があることは可能ですが、その束があると上の階の音が下の階に伝わりやすくなります。ルネスマンション



ルネスマンション
目印となるマーク▶



す。安定的な業績を残すには、仕事を待つ

「取り組むきっかけとなったのは、時代の流れで建設業界が厳しくなり、公共事業に変わってきたことですね。会社としては総合建設業なので、依頼された仕事には応じます。この場合は「こういふものはかねせん建設」とイメージしていただくと、思ったより必要だと思わなかったです」

「入居者の4大不満(収納不足、遮音性、採光・採風性、広さ)を抜本的に解決できるルネスマンションを建設できる会社は全国で約30社で、そのうちの1社がかねせん建設です。」

忘れられないためには
「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「公営団地の実績はあるものの、高層マンションの実績はありませんでした。一時期は福岡市内でワンルームマンションの下請けをやっていた。その後住宅都市整備公団で14階建てのマンションを受注しその工事が、九州支社長表彰を頂きました。それで高層マンションもできるという自信をもつことができた。下請けから元請けへと切り替えていくなかで、ルネスマンションという差別化された付加価値の高いマンション建設に取り組み始めました」

「やはり集合住宅にはさまざまな問題があります。騒音問題が事件になったりすると、マンション自体の価値が落ちてしまいます。会社としては、できるだけリスクがないものを提供したいと考えています。色々な工法と構造があり、ローコストマンションと呼ばれるものもあります。色々な選択ができるなかで、総合的に考えてお客様にとってプラスになると信じて営業しています」

「かねせんプラス」には、住宅に関する情報や勉強会の案内などを載せています。掲載している勉強会も、佐賀市の不動産会社と一緒に年三回開催しており、これも次回で13回目になります。新しいお客様を探手段、またお客様を勉強会でもあり、来年は久留米市でも新たに始める予定です」

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

「かねせん建設では『かねせんプラス』という企業紙を

長いお付き合いを
目指して

「たとえば食料品は週に何度か買われると思います。建物には違います。修理であれば年に何度かあるかわりませんが、毎月というわけではありませんが、だからこそ、いかにお客様と長くお付き合いができるか考えています」

「お客様のため、会社のためを常に考えて行動している古賀さん。では、そんな古賀さんの夢はなんでしようか。『私個人の目標としては、信頼される人間でありたい、そうあり続けたいですね。素直な心・感謝の気持ち・笑顔をもっとに生活しています。また、会社の夢・目標としては社員やその家族が安心して暮らすような会社を目指したいです。かねせん建設の独自の商品を駆使しながら、売上を安定させる事が、叶えたい目標です。またお客様から、長くお付き合いしていただける会社になれるよう努力したい』という会社であり続けたいと思っています」